

環境経営レポート

2022年度

対象期間：2022年9月1日～2023年8月31日

発行日：2023年10月17日

改定日：2023年12月27日

I-PRO
(IGA-PROCESS)

信頼にお応えできる確かな技術を
【各種プラスチックフィルムの印刷・ラミネートの加工】



有限会社 アイプロ

項 目	ページ
環境経営方針	P1
組織の概要 (事業者名、所在地、事業の概要、事業規模等)	P2
対象範囲（認証・登録範囲）	P2
環境経営活動組織図及び役割・責任・権限	P3
主な環境負荷の実績	P4
環境経営目標及びその実績	P4
環境経営計画の取組結果とその評価	P5
環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P6
代表者による全体評価と見直し・指示	P6

環境経営方針

□ 基本理念

有限会社アイプロは伊賀の豊かな自然に囲まれ、創業以来プラスチックフィルムのグラビヤ印刷加工を通じ、社会に貢献してまいりました。

お客様の信頼にお応えするため全従業員が不良品を出さないことを目標に日々努力しております。

今後は、事業活動を通じて地球環境保全が重要性であることを認識し、社員ひとりひとりが環境負荷の低減に積極的かつ継続的に取り組みます。

□ 環境経営行動指針

1. 事業を通じて地球環境保護の為に、二酸化炭素の削減に取り組みます。
2. 環境関連法規などを遵守します。
3. 生産性の向上及び不良品の低減に継続的に取り組みます。
4. 廃棄物の適正な管理と削減に努めます。
5. 水使用量の低減に努めます。
6. 化学物質の適正な管理に努めます。
7. 環境経営目標・活動計画を定め定期的に見直し、継続的な改善に努めます。
8. 環境経営方針を全ての従業員に周知・徹底します。

制定日：2009年6月25日

改訂日：2023年12月27日

有限会社アイプロ

代表取締役社長

大塚 崇

【組織の概要】**(1) 名称及び代表者名**

有限会社アイプロ

代表取締役社長 大塚 崇

(2) 所在地

〒519-1426 三重県伊賀市西之澤796-1

(3) 最高責任者

代表取締役社長 大塚 崇

(4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

品質管理部 部長 川上 幹雄 TEL：0595-45-5110

E-mail：m.kawakami@ipro-ltd.jp

(5) 事業内容

軟包装資材の印刷、コーティング、ラミネート加工を伴う事業活動

(6) 事業の規模

売上高 393百万円 (2022年9月1日～2023年8月31日)

従業員数 25名

サイト敷地面積 4,354 m²**(7) 組織沿革**

昭和57年5月 (株)ヤマガタグラビヤ伊賀工場として竣工

平成7年12月 軟包装衛生協議会 登録工場取得

平成16年2月 (株)ヤマガタグラビヤ中部工場をアウトソーシング化により閉鎖

(8) 事業年度(環境活動) 9月～翌年8月**【認証・登録の対象組織・活動】**☐ 全組織、全活動を対象範囲とする。

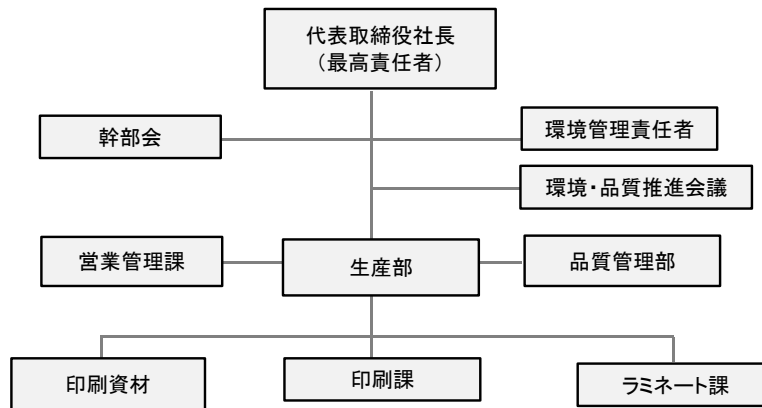
①登録組織名 有限会社アイプロ

②対象事業所 本社・工場

③事業活動 軟包装資材の印刷、コーティング、ラミネート加工

(有) アイプロEMS組織図

作成日：2009年6月25日
改訂日：2020年8月29日



	役割・責任・権限
代表取締役社長 (最高責任者)	・環境経営に関する最高責任者。 ・EMSに必要となる、人・設備・費用・時間を準備する。 ・課題とチャンスの作成と定期的な見直し。 ・環境管理責任者を選任する。 ・環境経営方針の作成と見直し、全従業員への周知する。 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を承認する。 ・環境経営活動レポートを承認する。 ・関連法規(兼順守表)の確認と承認する。 ・全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者 (品質管理部 部長)	・環境経営システムの構築、実施、管理をする。 ・環境関連法規(兼順守表)の作成と順守の確認をする。 ・環境経営目標・環境経営活動計画書を作成と実行する。 ・環境経営活動レポートを作成する。 ・環境負荷及び環境への取り組みの自己チェックを作成する。 ・環境情報報告/処置記録をする。 ・教育の訓練と記録を作成する。 ・その他必要とされる文書、記録を作成する。 ・緊急事態対応訓練の実施と手順書の見直しを実施する。
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性の認識をする。 ・決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。 ・緊急事態対応訓練に参加する。
環境・品質推進会議	・月1回の朝礼を会議と兼ねる。 ・全従業員に環境経営目標に対する達成状況の報告を行う。

【主な環境負荷の実績】

P4

項目	単位	2018年度 ～2020年度(平 均值)	2021年度	2022年度
電力使用量	kg-CO ₂	280,891	269,078	234,350
ガソリン使用量	kg-CO ₂	7,685	7,153	6,758
LPGガス使用量	kg-CO ₂	683,089	679,393	582,405
二酸化炭素排出量(合計)	kg-CO ₂	971,665	955,624	823,513
産業廃棄物排出量	kg	91,577	85,230	78,250
一般廃棄物廃棄量	kg	419	429	451
化学物質購入量(トルエン含有)	kg	168,330	144,221	139,261
水使用量	m ³	1,189	1,190	1,406

※ 中部電力パワーグリッド(株):(2020年)0.433kg-CO₂/kWh・ミツウロコグリーンエネルギー(株):二酸化炭素係数(メ
ニューD(残差):0.475kg-CO₂/kWh適用

※ ガソリンCO₂排出係数:2.32kg-CO₂/L LPガスCO₂排出係数:3.00kg-CO₂/kg

※ 液化石油ガス(LPG)の使用量を気体(m³)で把握、「1m³=2.07kg」として換算している。

【環境経営目標・実績】

※ 削減率:(実績÷基準値)×100% (100%基準)

年度 項目		基準年度	2022年度		2023年度	2024年度
		2018年度～ 2020年度 (平均値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
売上高(百万円)(B)		421	425	393	429	438
電力使用量の削減	(kWh)(A)	595,109	589,158	506,015	583,207	577,256
	原単位(A/B)	1,414	1,399	1,288	1,385	1,371
	基準年度比 削減率		99%	91%	98%	97%
ガソリン使用量の削減	L(C)	3,310	3,277	2,913	3,244	3,211
	原単位(C/B)	7.9	7.8	7.4	7.7	7.6
	基準年度比 削減率		99%	94%	98%	97%
LPGガス使用量の削減	m ³ (D)	109,926	108,827	93,765	107,727	105,562
	原単位(D/B)	261	258	239	256	253
	基準年度比 削減率		99%	91%	98%	97%
二酸化炭素排出量 の削減(合計)	kg-CO ₂ (E)	971,665	961,948	819,520	952,232	942,515
	原単位(E/B)	421	417	393	413	408
	基準年度比 削減率		99%	93.3%	98%	97%
産業廃棄物の削減	kg(F)	91,577	90,661	78,250	89,745	88,830
	原単位(F/B)	218	215	199	213	211
	基準年度比 削減率		99%	92%	98%	97%
一般廃棄物の管理 (参考値)	kg(F)	419	415	451	411	406
	原単位(F/B)	1.00	0.99	1.15	0.98	0.97
	基準年度比 削減率		99%	115%	98%	97%
化学物質購入量の 管理(トルエン含有) (参考値)	kg(F)	168,330	166,647	139,261	164,963	163,280
	原単位(F/B)	399.83	395.84	354.35	391.84	387.84
	基準年度比 削減率		99%	89%	98%	97%

水道使用量の削減	m ³	1,189	1,177	1,406	1,165	1,153
	基準年度比	削減率	99%	118%	98%	97%
再製造金額の削減 (コストの削減)	再製造金額 百万円 (G)	6.9720	6.8326	3.8331	6.7628	6.6931
	原単位(G/B)	0.0156	0.0153	0.0098	0.0151	0.0150
	基準年度比	削減率	98%	55%	97%	96%

※ 再製造の金額の定義:年間不良額/年間売上高)

【環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容】

P5

※ 取組内容の達成状況: ○できた(100%) △(50%～100%未満) ×全くできなかった(0%)

※ 達成率:削減目標＝(目標÷実績)×100%

環境経営計画	達成状況	継続/変更	評 価 (結果と今後の方向)
電力の二酸化炭素排出量削減	達成率	109%	(目標達成) 不要時の消灯等・GHPを主として使用したことで達成できた。 (次年度) ①～④の取り組みを継続実施する。 料金の値上げも予想され、一段の取り組みが必要である。
①デマンドの管理	○	継続	  
②不要時の消灯の徹底	○	継続	
③フィルターの清掃(月1回程度)	○	継続	
④退社時、機械及び機器の電源OFFを確認	○	継続	
ガソリンの二酸化炭素排出量削減	達成率	106%	(目標達成) 得意先への訪問は控えてはいるがエコ運転の徹底、アイドリングストップとルート効率を心掛け目標を達成した。 (次年度) ①、②を継続実施と共に、今後もルートを含め効率の良い運転を心掛ける。達成に取り組んでいく。
①エコ運転の徹底(急発信、急加速、急停車しない)	○	継続	  
②アイドリングストップの徹底(駐停車時)	○	継続	
③営業ルートの効率化を検討する。	○	継続	
LPガスの二酸化炭素排出量削減	達成率	108%	(目標達成) 空調(冷暖房)にGHPを主に稼働していたが、機械停止後の早期停止の効果もあり達成となった。 (次年度) 設定温度・使用効率に取り組む。料金の値上げも予想され、一段の取り組みが必要である。
①ボイラーの空気比を調整(メーカーにて調整)	○	継続	
②配管の断熱補強	○	継続	
③GHPとEHPの効率運転を検討する。	△	継続	
産業廃棄物の削減	達成率	108%	(目標達成) 機械稼働に絡む資材使用量減少と産業廃棄物の排出量の減少が考えられる。 (次年度) 依然として刷り直しは多く①、⑤、⑥の継続実施を行う。
①リード紙使用量削減	△	継続	 
②廃棄接着剤の削減	△	継続	
③作業指示ミスの撲滅	○	継続	
④検査(検品)ミスによる流出クレームの削減	○	継続	
⑤刷り直し不良撲滅	△	継続	
⑥誤作業の撲滅	○	継続	
一般廃棄物の管理	達成率	86%	今後もデータの把握を行っていく。
①適正取り組みとしてデータの把握	○	継続	
化学物質購入量の管理(トルエン含有)	達成率	112%	今後もデータの把握を行っていく。
①適正取り組みとしてデータの把握	○	継続	
水道使用量の削減	達成率	94%	(目標未達成) 機械メンテナンス(配管)の清掃頻度を増やしたことで夏場の室外機への散水の影響が考えられる。 機械メンテナンス(配管)と室外機への水使用量を減らすことは難しく、それ以外の水使用時には無駄な使用をしないように節水を心掛ける。
①水は出しっぱなしにしない。	○	継続	 
②水を使用する時は、節水を心がける。	○	継続	
③室外機の散水方法を検討する。	△	継続	

再製造金額の削減 (コストの削減)	達成率	157%	(目標達成) ①・②の実施を徹底し達成となった。
①事前準備の設定条件・注意事項の確認	○	継続	(次年度) 達成にはなっているが、依然として 刷り直しは多く、取り組みの継続を 行う。
②印刷本番前・加工中の不良早期発見	○	継続	



- 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
法的義務を受ける主な関連法規制及び当社が同意しているその他の要求事項は次の通りです。

適用される法規制等	規制内容（施設、物質、活動）	遵守状況
廃棄物処理法	保管基準の遵守、マニフェストの管理、交付状況報告書等	遵守
騒音規制法	特定施設の届出（印刷機）	遵守
振動規制法	特定施設の届出（印刷機）	遵守
化学物質排出管理促進法（P R T R制度）	排出量の届出（トルエン、キシレン等の使用量報告）	遵守
浄化槽法	保守点検、定期検査（水質基準等）	遵守
家電リサイクル法	事業者の責務（テレビ、冷蔵庫、洗濯機の引渡義務）	遵守
消防法	許可、届出、報告	遵守
インキ工業会NL規制	適合インキの購入	遵守
フロン排出抑制法	フロン類の登録充填回収業者による適切な引き渡し 設置環境の維持保全、機器の点検及び記録の保管 (空調機・エアドライヤー)	遵守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、法規制等の逸脱はありませんでした。

また過去3年間にわたり違反や訴訟もありませんでした。

- 内部コミュニケーションは、朝礼、掲示板で周知している。
 □ 外部から環境に関する苦情、要望などありませんでした。
- 遵守確認年月日：2023年8月14日
 環境管理責任者：川上 幹雄

□ 代表者による全体の評価と見直し・指示

（全体の評価）

エコアクション2.1を導入して無駄な使用=環境への負荷の意識は向上している。工場屋根のソーラーパネル設置（輻射熱の軽減）と総合的省エネシステムの導入が電力使用量とGHPのLPG使用量の抑制に寄与。年々暑さが厳しく感じられ、電力・LPG使用量の増加が避けられないと考えられるが、デマンドや無駄な使用を止めることで使用量の抑制に努める。廃棄物の低減は会社の利益となり、環境への負荷低減にも繋がる。水の使用量は未達成となり、水の使用量削減は各自において節水を心掛けて行うこと。一般廃棄物の廃棄量と化学物質購入量（トルエン含有）については適正取り組みによるデータの把握を行っていく。

（見直し・指示）

色々な物の価格の値上がりが続いており、今後もエネルギーの料金値上がり・資材の値上がりが予想される。エネルギーの使用量・廃棄物を減らすことは会社の利益となり、環境への負荷低減にも繋がる。廃棄物は、再製造（印刷刷り直し・刷り増し）を減らす事で廃棄物発生への抑制に繋げる。

項目	見直しの必要性	必要に応じて変更指示
環境経営方針	否	必要なし
環境経営目標	否	必要なし
環境経営計画	否	必要なし
実施体制	否	必要なし
その他の要素	否	特になし

2023年10月17日

代表取締役社長 大塚 崇

（参考）2021年度の太陽光発電量及びCO2排出削減量（パネルの能力：265W） ※小数点以下切り捨て

太陽光発電量（単位：kWh）	CO2排出係数	CO2排出削減量（単位：kg-CO ₂ ）
50,496	0.475kg-CO ₂ /kWh	23,986

※太陽光発電は全量売電しているため、電力使用量削減の活動計画には含めていません。

衛生管理自主基準の認定工場

工場屋根にソーラーパネル設置

